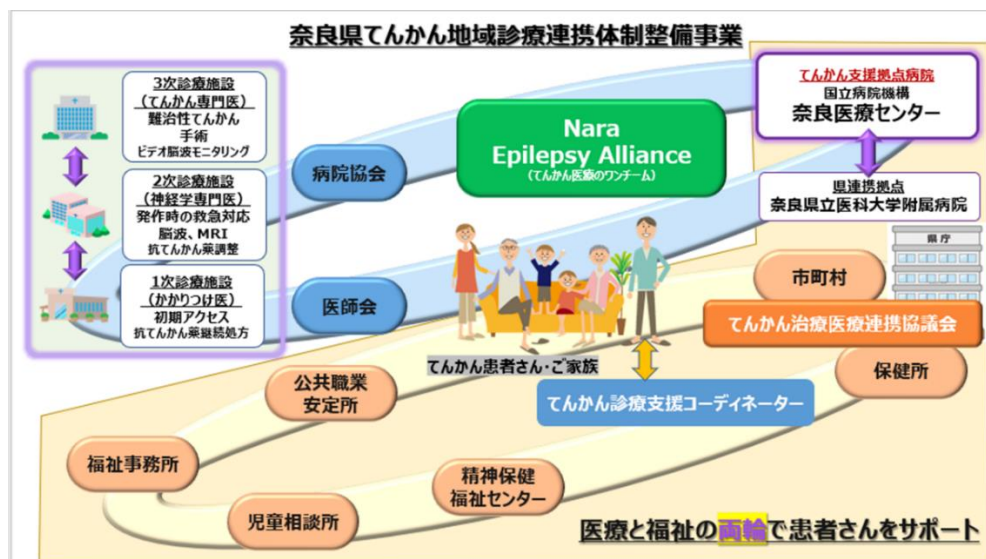


2.2. 奈良県てんかん対策地域診療連携整備体制事業（2022年度）報告

国立病院機構奈良医療センターてんかんセンター 平林秀裕 澤井康子

まとめ

- ・奈良県におけるてんかん対策地域診療連携整備体制事業は、2021年4月、てんかん診療拠点機関として、国立病院機構奈良医療センターが指定され、奈良県立医科大学附属病院が連携機関として機能することで、活動を開始している。
- ・医療・福祉との連携をはかるために、医療・行政・患者代表メンバーからなる「てんかん協議会」の基礎を立ち上げた。
- ・てんかん患者をサポートするために、医療者のチームとして、「Nara Epilepsy Alliance（以下NEA）」の会合を定期的に行っている。
- ・奈良県下のてんかん専門医の多くが当院での診療を行っており、専門医同士が相談できる体制となっている。
- ・てんかん教育普及・啓発のため、医療関係者向けの研修や医療関係者以外（患者・患者家族・福祉施設等）の研修も行っている。
- ・てんかん患者の医療・福祉に関する相談窓口となる「てんかん診療支援コーディネーター」の育成を積極的に行うとともに、相談業務を行っている。
- ・奈良県の関係医療機関に、ホームページ「てんかん支援ネットワーク」への参加を呼び掛けた。



【活動報告】

1) てんかん協議会メンバー選出

てんかん協議会の開催のために、メンバーの選出を行った。現在は、顔合わせの段階であり、今後は、年数回の会合を予定する予定である。患者会からの要望について、意見を聞く貴重な場と考えている。

	構成員
てんかん治療を専門に行っている 医師	協議会代表 奈良医療センター 平林秀裕 事務局担当 奈良医療センター 澤井康子 脳神経外科 奈良県立医科大学 田村健太郎 小児科 奈良県立医科大学 榊原崇文 脳神経内科 南奈良総合医療センター 小原啓弥 精神科 奈良県立医科大学 牧之段学 救急科 奈良県立医科大学 福島英賢 医師会 橋本クリニック 橋本浩
県疾病対策課 精神保健福祉センター	奈良県疾病対策課長 精神保健福祉センター精神科医師
てんかん患者 およびその家族	奈良県波の会会員 その他（未定）

2) 波の会奈良県支部との連携

当院職員 4 名で、波の会奈良県支部を訪問。活動の状況につき、お互いに情報交換を行った。2023 年 3 月には、波の会と共催で市民公開講座を開催予定である。

3) NEA (Nara Epilepsy Alliance) 会合

てんかん患者が、適切な医療が受けられるように、県内のてんかん医療を提供する病院・診療所が連携して、てんかん医療の諸問題を検討する会議である。奈良県内のてんかんの診療を行う医療機関の医師を中心としたメンバー（詳細は 2021 年度報告書参照）で 2021 年 11 月に発足した。

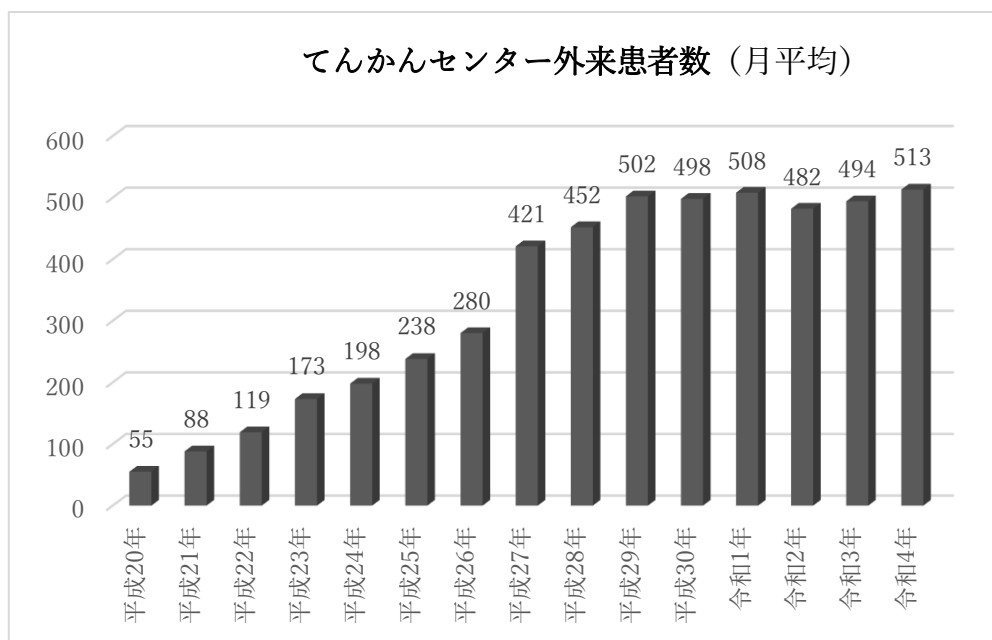
引き続き、2022 年度も当院が、奈良県診療拠点病院として認定されたことの告示とともに、6 月 9 日・12 月 8 日に NEA を開催し、NEA メンバーの確認・拠点病院報告を実施した。

4) 奈良医療センターてんかんセンターの診療状況

現在、当院では、当院常勤医・非常勤医師が、てんかん専門外来で診療を行っている。脳神経外科 4 名・脳神経内科医 3 名・小児神経科医 2 名（うち、てんかん専門医 8 名）が担当している。月に約 500 名の外来患者が来院される。難治症例については、県下のてんかん専門医同士が連携して診療にあたる体制をとっている。

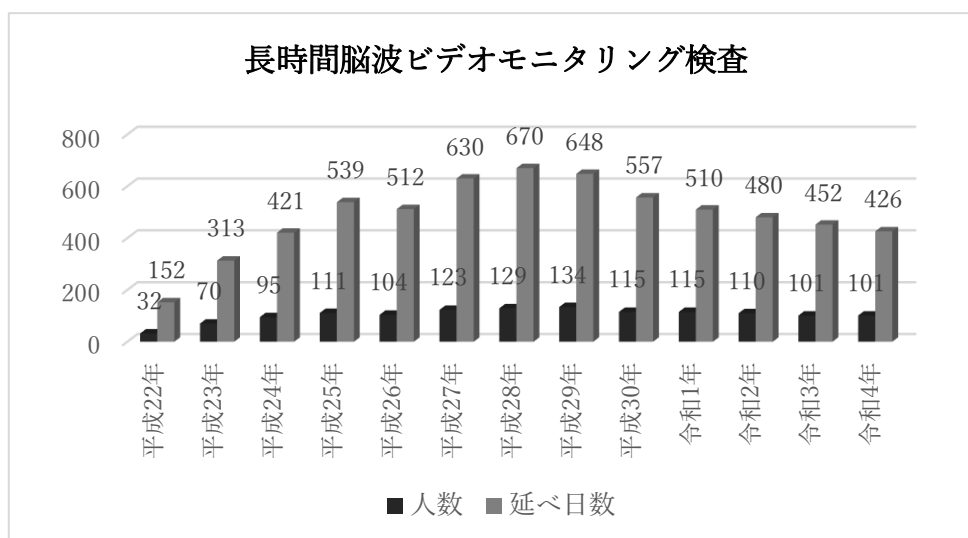
奈良県立医科大学附属病院とは、脳波所見等をテレビ会議で討論できるシステムも備えており、症例の相談がお互いに迅速にできる。

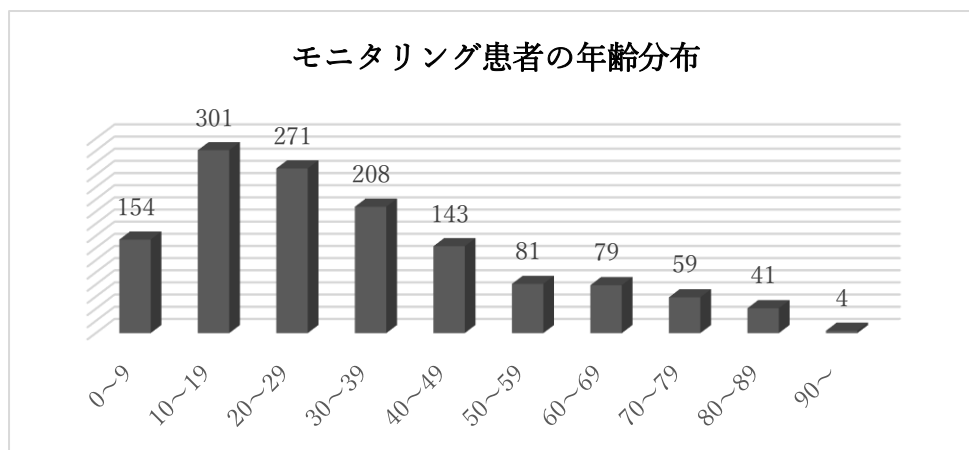
<外来患者数>



<長時間ビデオ脳波検査実績>

てんかん診療の質の確保にはかかせない長時間ビデオ脳波検査は、ここ数年、年間約100-120例を行っている。奈良県下では、充実したビデオ脳波モニタリングシステムが行える医療機関が限られており、他院からの依頼も多い。脳波解析専門技師3名が専門的に検査を担当・解析業務にも携わっている。小児から成人まで幅広く対応している。また、強度行動障害の患者についても、工夫しながら対応している。





<てんかん外科手術>

てんかん外科適応症例については、主に当院で長時間ビデオ脳波検査を行ったのち、カンファレンスでてんかん外科の適応等を決定し、その後、連携機関である奈良県立医科大学附属病院で実施している。

<神経心理検査>

心理療法士が中心となり、知的評価・精神症状の評価等を行っている。また、心理療法士が「MOSES」研修会に参加し、てんかんのある人が病気に向き合う方法についてサポートできるように、準備を進めている。

5) 研修・啓発活動の主催

◆院内研修・院外研修

◇てんかんカンファレンス（医療従事者対象）

奈良医療センターのさくら講堂にて、第一木曜日 17:30 より、近隣病院のてんかん専門医が参加して、長時間ビデオ脳波検査の解析・難治症例に対する治療方針等を検討している。医師のみならず、院内からは、多職種の参加があり、毎回、約 20 名程度が参加している。また、2022 年 1 月より、NEA メンバーに対して、WEB 配信し、NEA メンバーから、てんかんに興味のある医師に対して、WEB 参加ができるよう、声かけをおこない、てんかんにかかわる医師の裾野を広げている。

日時	内容
2022 年 4 月 7 日	16 歳・19 歳症例
2022 年 5 月 12 日	10 歳・17 歳症例
2022 年 6 月 2 日	38 歳・26 歳症例
2022 年 7 月 7 日	9 歳・70 歳症例
2022 年 8 月 4 日	51 歳症例
2022 年 9 月 1 日	17 歳・16 歳・15 歳症例
2022 年 10 月 6 日	2 歳・19 歳症例
2022 年 11 月 10 日	1 歳症例、てんかん重積と治療の講演会
2023 年 1 月 5 日	71 歳・13 歳症例、薬剤指導について、MOSES 研修会報告
2023 年 2 月 2 日	87 歳・13 歳症例

◇患者向け・一般市民向けの研修

	内容	講師	対象
2022年3月26日	市民公開講座・パープルデー企画「てんかんで困ったときは」	澤井康子（医師） 田中ありさ（看護師）	一般市民
2022年7月13日	てんかんと薬物療法・服薬指導	澤井康子（医師） 細川敦規（薬剤師）	薬剤師
2022年12月20日	てんかんと社会資源	守屋和起（医師） 辻友博（MSW）	福祉職
2023年3月12日 予定	市民公開講座 「てんかんを知ろう」	澤井康子（医師） 田中ありさ（看護師） 坂東和晃（心理療法士）	一般市民

6) 相談事業

外来に「てんかん相談室」を設置した。てんかん患者・家族が気軽に立ち寄り、コーディネーターが相談に応じられる場所である。現在、電話による相談業務も含め、院内の2名のコーディネーターが行っている。1-7件/月の相談あり。受診の相談や、心理社会的問題・制度やサービスの相談等多岐にわたる。また、引っ越しに伴う転院先の相談にも応じている。

7) てんかん診療支援コーディネーターの育成

国立精神・神経医療研究センター主催の研修会や全国てんかんセンター協議会（JEPICA）参加で研修を受け、正式にコーディネーターとしての認定を受けている。

研修修了者は奈良医療センターで、2021年度看護師1名 MSW1名、2022年度看護師11名の予定である。今後は院内のみならず、院外にも認定コーディネーターの配置が必要と思われるため、研修会への参加案内を院内院外ともに行ってゆく予定である。

8) コーディネーターによる県下施設の訪問

病院・養護学校・障害者事業所・地域包括センター・老健施設等を訪問し、当院での活動について紹介している。また、就労支援センターへの訪問も行い、てんかん患者の就労支援について、ご協力いただくよう依頼を行った。

9) てんかん支援ネットワーク（てんかん地域診療連携体制整備事業により運営されている。インターネット上で公開中）の整備

奈良県下の各医療機関に郵送にて、登録の可否についてたずね、ホームページを整理。県下医療機関のてんかん医療への連携の意思について実態把握をおこなっている。また、てんかん患者がより適切に、医療機関につながりやすいように整備を進めている。